

令和7年12月2日(火)

令和7年度健康危機における保健活動推進会議

資料7



豪雨災害の被災経験を 踏まえた保健師の取組について

～岡山県倉敷市の取組～



倉敷市保健所副参事兼保健課長
小原 美由紀

本日のお話



倉敷市の概要

豪雨災害の被災状況・復興

保健所・保健師の活動の振り返り

今後の災害への備え



人 口	471,985人
世帯数	221,699世帯
高齢化率	28.1%
合計特殊出生率	1.38（令和5年）

参考：令和7年度版保健衛生年報（R7.3）

面積 356.07km²

沿革

- 昭和42.2.1 倉敷市・児島市・玉島市が合併
- 昭和46.3.6 都窪郡庄村を合併
- 昭和47.5.1 都窪郡茶屋町を合併
- 平成17.8.1 浅口郡船穂町、吉備郡真備町を合併



【各地区の特徴】

- 倉敷地区・・・文化観光の町
- 児島地区・・・繊維の町
- 水島地区・・・工業の町
- 玉島地区・・・果物が特産の町
- 真備地区・・・竹の子が特産の町

倉敷市の保健師数・配置状況

常勤保健師106名 (R7.4.1現在)

R6	R5	R4	R3
106人	104人	101人	97人

市保健所（保健課・健康づくり課） 33名：業務担当制

【保健課】 22名

・統括保健師1名

- ・総務係（3名）……健康危機管理、人材育成
- ・感染症係（7名）……感染症
- ・精神保健係（8名）……精神保健
- ・保健医療係（3名）……難病

専門技術的なサービス
企画調整機能

【健康づくり課】 11名

・副統括保健師1名

- ・健康増進係（3名）……成人保健（健康増進計画）
- ・母子保健係（5名）……母子保健
- ・けんしん係（2名）……健（検）診（特定健診・保健指導）

倉敷市役所（本庁） 14名：分散配置

【人事課】 2名

【地域防災推進課】 1名

【健康長寿課】 4名

・副統括保健師1名

- ・地域包括ケア推進室（3名）

【福祉支援連携室】 1名

【国民健康保険課】 1名

【生活福祉課】 2名

【子ども相談センター】 3名

倉敷市役所本庁舎

真備支所

真備

倉敷

倉敷市保健所

玉島

玉島支所

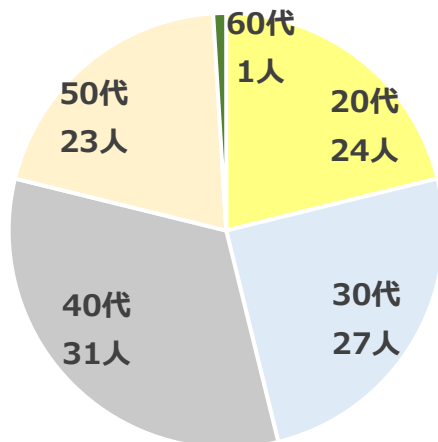
水島

水島支所

児島

児島支所

年代別保健師数



各保健推進室 59名： 地区担当制（64学区）

- ・倉敷保健推進室（22名）
- ・児島保健推進室（11名）
- ・玉島保健推進室（11名）
- ・真備保健推進室（3名）
- ・水島保健推進室（12名）

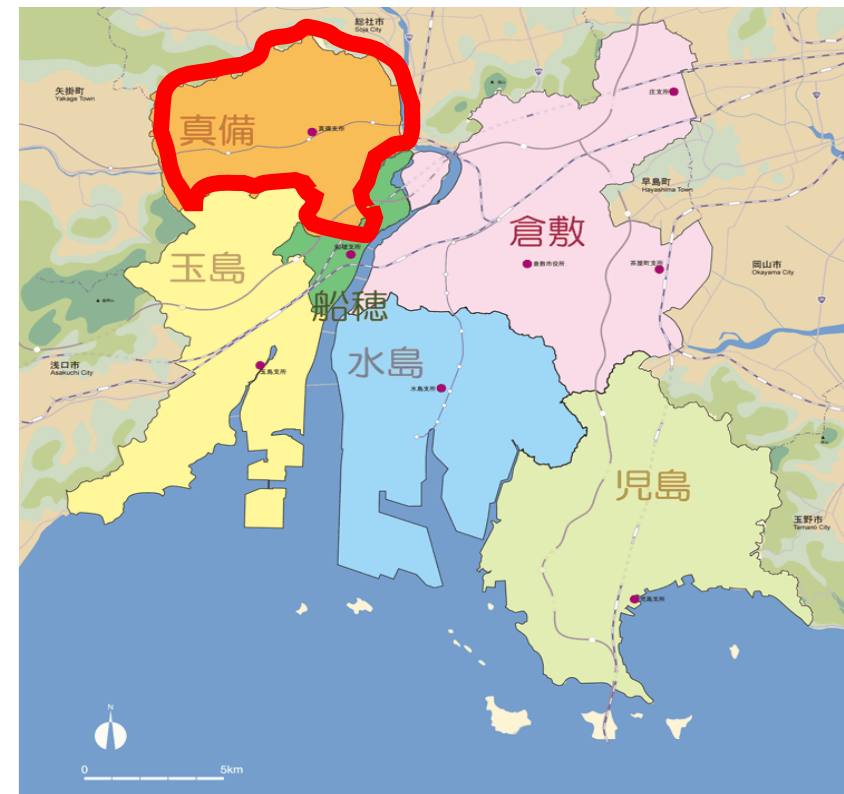
身近なサービス
一次対応機能

真備地区について

倉敷市真備町（平成30年6月末日時点）

人口 22,797人
世帯数 9,006世帯
高齢化率 33.7%

過去にも河川の氾濫による被害があり、
近年では昭和51年台風17号による
浸水被害あり



平成30年 7 月豪雨災害（倉敷市真備町）

●平成30年 7 月 6 日 22：40 大雨特別警報

●平成30年 7 月 7 日 未明～12：30

倉敷市真備町にある小田川等、4 河川計 8 か所の堤防が決壊。

真備地区の27%にあたる12平方キロが浸水
(4,690戸)

真備地区内 死者 51名

自衛隊や消防等に救助された方 2,350名

医療機関 2 病院、10診療所、7 歯科診療所

のち、1 病院以外診療不可能な状況に



全国からの御支援 ありがとうございました♡

- DHEATチーム（和歌山県 1 チーム、大阪府 3 チーム）
- 倉敷地域災害保健復興連絡会議
（延べ417チーム、延べ人数2,017人）
- 各自治体からの派遣保健師チーム
（延べ627チーム、延べ人数2,049人）
- 福島県、埼玉県、山梨県、愛知県、三重県、滋賀県、奈良県、鳥取県、岡山県、徳島県、香川県、高知県、長崎県、福岡県、神戸市、姫路市、岡山市、高知市

復興の歩み

- 平成30年 7月17日 借上型仮設住宅入居受付開始
- 平成30年 9月 建設型仮設住宅入居開始
- 平成30年10月 被災者見守り・相談支援事業開始
- 平成30年12月 全ての避難所が閉鎖
- 平成31年 3月 真備地区復興計画の策定
(令和元年～概ね5年間)
- 令和元年 9月 全ての決壊箇所について復旧工事が完了
- 令和 3年 3月 地区内 3か所に災害公営住宅完成
- 令和 3年11月 地区内の全ての公共施設の復旧完了
- 令和 6年 3月 小田川合流点付け替え事業完成
- 令和 6年 7月 真備ふれあい公園（復興防災公園）開園



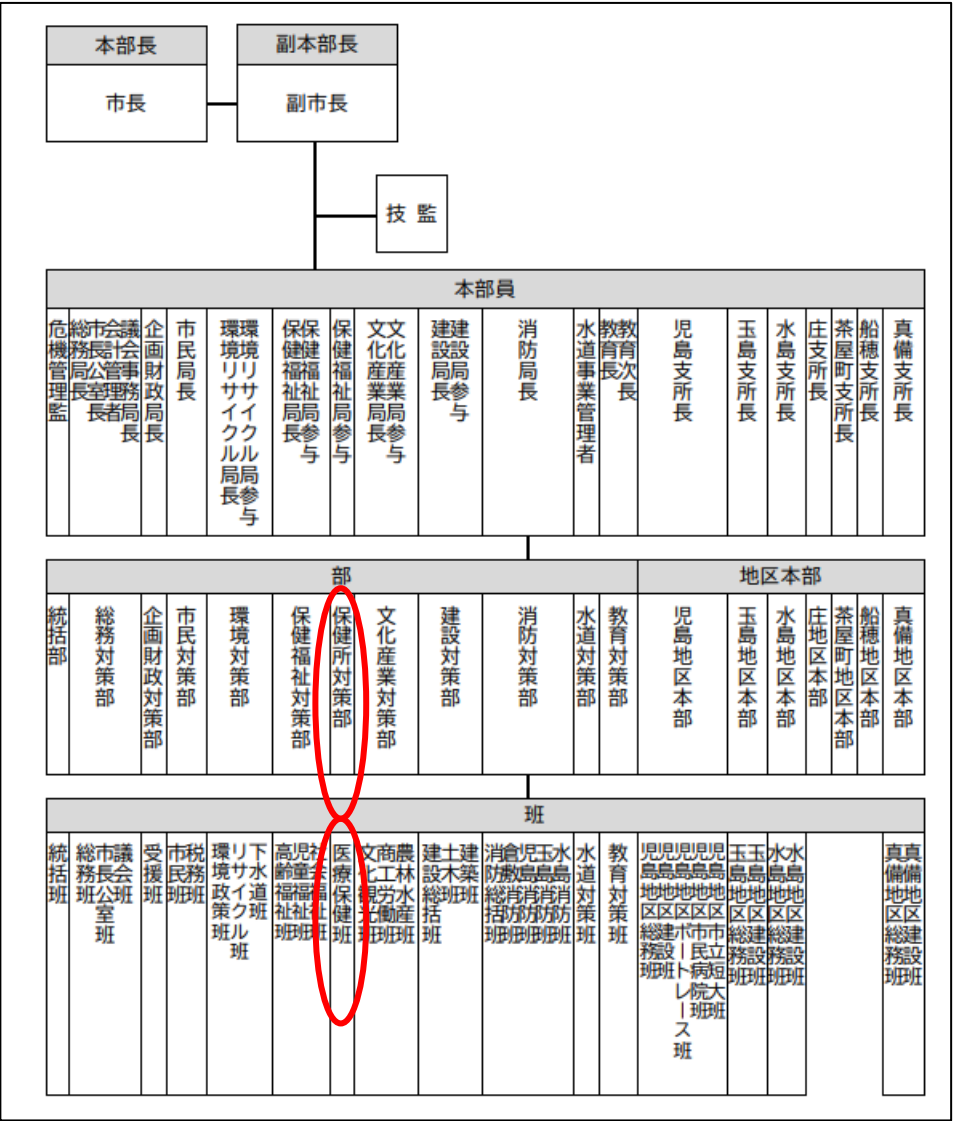
真備ふれあい公園

倉敷市災害対応マニュアル(風水害編)R7.3月

災害時における倉敷市災害対策本部組織図



倉敷市災害対応マニュアルは、災害発生 of 初期段階における各部班の対応方法を具体的かつ簡潔に記載したもの。各職員の災害対応力を向上させ、円滑な災害初動対応を行うことが目的。



※市保健所は、「保健所対策部-医療保健班」に位置付けられている。

保健所の活動の振り返り

災害時は、課を越えた組織横断的・多職種体制とするため、6つの班体制で災害対応。豪雨災害の振り返りと今後の災害に備え、各班長及び災害ワーキングメンバーによる保健所災害時対策ワーキング全体会議を開催。その後、各班で職員の災害対応力向上の訓練の実施、見えてきた課題を共有し、今後に向けて対応策を検討。

【災害発生時 6班体制で対応】

統括班

医療班

避難所健康
管理班

衛生班

物品施
設班

保健推
進室班



【R7保健所災害時対策ワーキング全体会議】

＜項目の例＞

初動、情報管理、避難所支援全般、
要医療者・要配慮者への対応、物品
管理、地域づくり、職員の人材育成等
16項目

＜内容の例＞

受援に備えた体制整備が急務



【R7物品施設班訓練場面】

定期的な研修・訓練の実施

初動マニュアル・アクションカードの改訂

アクションカードの一例

【全職員】

ア22

止水板設置アクションカード（浸水被害時）

あなたは、保健所が大雨等で浸水被害のおそれがある時の『止水板設置担当者』に任命されました。

アクションカードに従い、直ちに必要な作業を行ってください。

作業完了後は、統括班班長に報告してください。

（確認責任者 確認完了日時 月 日 時 分）

1 必要物品を準備せよ。

止水板の保管場所 : 1階男子更衣室（入って右側）

止水板（簡易型）の保管場所：公用車南側駐車場近くの外倉庫

2 止水板を設置せよ。

止水板：東玄関、西玄関（各1つ）

止水板（簡易型）：職員用時間外入口（西側通用門）、地下行き外スロープ、
1階犬舎降り口の非常口ドア

3 作業完了後は、統括班班長に報告せよ。



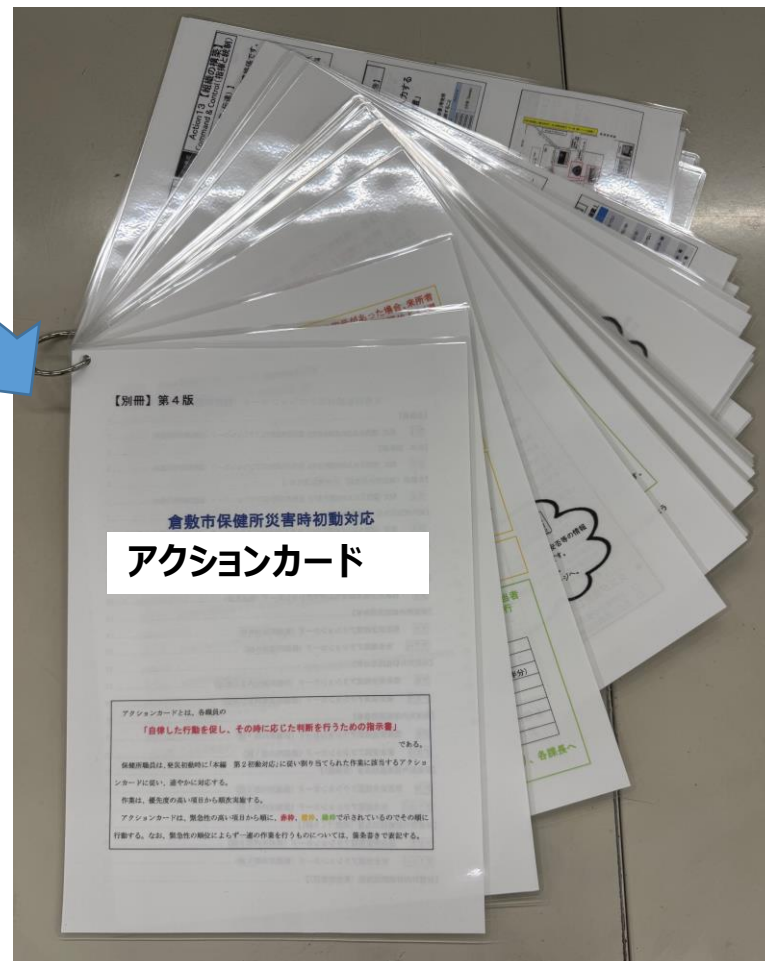
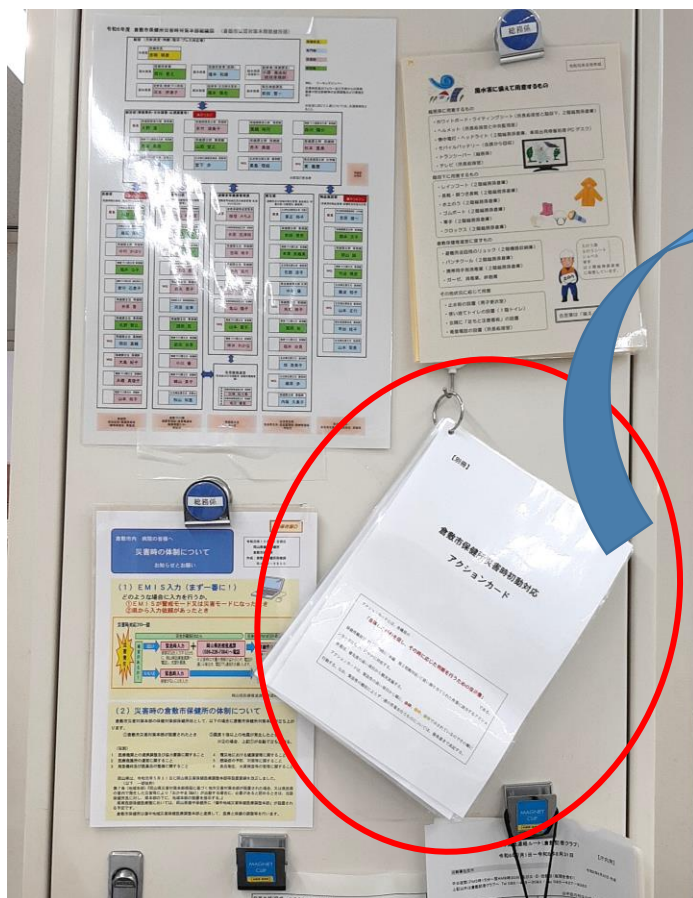
【東玄関】



【地下行き外スロープ】

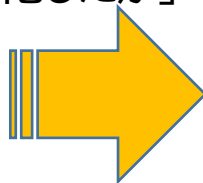
アクションカードの工夫

- A 4 サイズ、ラミネート加工（マットタイプ）して、各課に配置
- 常に目につく、誰にでもわかる場所に配置
- 訓練で実際に使用し、随時見直し



保健師活動の振り返り

- ・「あの時の支援はどうだったのか」
- ・「被災者の暮らしや健康問題はどう変化したか」
- ・「あの時の自分の気持ち」
- ・「後輩に伝えておきたいこと」



- ◎ **災害時に保健師が所属を越えて応援できる体制づくり**
- ◎ **災害対応経験の伝承**



中堅期保健師研修で、見守り支援室の保健師から講話

- ・豪雨災害の全体像、見守り支援事業について講話
- ・平時の保健活動を健康危機発生時につなげるために、
今からできることをグループワーク



管理期保健師研修で「災害伝承を現任教育としてどう取り組んでいくか」をテーマに実施

フェーズごとに起こりうる健康問題を予測し、予防的な視点をもつこと、経験知を共有し、今後の具体的な備えや現場対応力の向上について検討

◎ 災害時に保健師が所属を越えて応援できる体制づくり

- 風水害を想定した真備地区への応援についてあらかじめ人選

夜間や休日もかけつけるよ！

- 大規模災害を想定した保健所、各地区保健推進室間の協力、
応援体制の確認

初動は地区ごとで、その後は保健所で

- 分散配置されている保健師の役割の確認

保健所リエゾンとして市災害対策本部へ

◎ 災害対応経験の伝承

- ・倉敷市で何が起き、それぞれの部署や立場でどのように活動し、何を考え、感じて過ごしたのか
- ・実際の経験がなくても倉敷市保健師が体験したこととして共有する

そんな大変なことがあったんだ…

7年が経ち災害を知らない保健師が増えてきました。

健康被害の想定とそれらを防ぐための対策を理解する

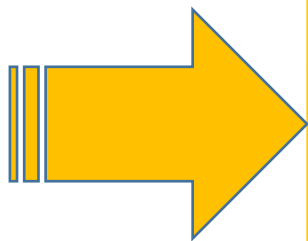
具体的な対策や備えができる

各期に応じた健康危機対応ができる



次の災害に備えるために・・・

- 災害時に保健活動が混乱、停滞しないよう平時からの体制整備を行う必要がある。
- 災害経験を踏まえた住民同士の支え合いや関係機関の協働による地域づくりを進めていく必要がある
- 住民の自助力、互助力を高める必要がある
- 災害を風化させてはいけない



**災害への備えを
通常業務として取り組む**

健康危機管理担当者会議の開催（R5～）

年度	内容
R 5	・平成30年7月豪雨災害被災者の健康課題（5年目の振り返り） ・心のケア啓発資料の作成及び啓発にむけての 共通事項確認 等
R 6	・健康危機への備え・課題の共有 （マニュアル、要配慮者への対応、自助力互助力向上、 訓練、地区診断等） ・非常用持ち出し物品の庁舎内展示について
R 7	・共通の媒体を用いた啓発について ・保健分野で把握している災害時要配慮者に対する 安否確認について ・災害時保健活動のために平常時から把握しておくべき 地域の情報収集の標準化について

部外秘

平成30年7月豪雨災害時に
保健師がかかわった健康問題
～5年目の振り返り～



令和6年3月
健康危機担当者会議

なぜ「振り返り」をしたか（目的）

被災による健康問題の変化に対する支援の在り方について、その経過を保健師間で共有できていないのではないか

健康課題について	保健師について
健康問題に着目した整理はできていない	・被災を体験していない保健師が増える ・被災時の対応を経験した保健師も、その経験は様々である
健康問題に着目し、「住まいごと」「時期ごと」に整理してはどうか	保健師が被災を少しでも理解するために、どんな働きかけが必要か考えていきたい

この資料を基に各所属のOJTとして災害の種別・フェーズごとに起こりうる健康課題について意見交換を行い、検討しています。

市をあげての個別避難計画作成の取組

避難行動要支援者向け

避難の際に支援が必要な方の
「個別避難計画」を
一緒に考えてみませんか？

個別避難計画とは、
高齢者や障がい者の方などのうち、災害時に一人では避難することが困難な方（避難行動要支援者）について、あらかじめ「いつ」「どこへ」「誰と一緒に」「どうやって」避難するかを、具体的に決めておく「命を守るための計画」です。

災害が起きる前に
安全な場所に避難したいけど、
自分や家族だけでは避難できない

近所に心配な人がいるけど
自分ひとりでは
助けてあげることは難しい...

そんな時こそ個別避難計画を
協力して作りましょう！



倉敷市防災推進課

非常 持出品 を備えましょう！

避難所で2～3日間過ごす時に必要となる非常持出品です

非常持出品は、災害の危険が迫り自宅から避難するとき持ち出すものです。
非常持出品などにまとめ、すぐに持ち出せる場所に用意しておきましょう。
※必要な物は家族それぞれ異なります。

非常持出品チェックリスト(例)

- ☐ 非常食・ペットボトルの水（1日分は3L）
- ☐ スマートフォンなどの充電器・予備バッテリー
- ☐ 懐中電灯・電池
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 筆記用具（油性ペン・ノート）
- ☐ 生理用品・マスク・アイマスク・耳栓
- ☐ 眼鏡・コンタクトレンズ
- ☐ 洗面用具（歯みがき・洗剤）
- ☐ ウェットティッシュ（7枚）
- ☐ ヘルメットなどの頭をよけるもの
- ☐ カイロ・防寒保温シート
- ☐ 防寒着・雨カッパ・服
- ☐ 軍手・手袋
- ☐ 子どもの好きなお菓子
- ☐ 子どもの大切なおもちゃ

非常持出品と一緒に持ち出す物

- ☐ 医療品（常備薬・消毒液・ばんそうこ）
- ☐ 免許証・健康保険証・診察券
- ☐ 印鑑（通帳とは別々に保管）
- ☐ 現金（小銭も含めて）
- ☐ 家・車の鍵
- ☐ 住所録・パスワードメモ

倉敷市防災危機管理室 086-426-3645

非常 備蓄品 を備えましょう！

自宅でも7日間過ごす時に必要な備蓄品を書いて備えましょう

大規模災害発生時には、避難所に物資をすぐに届けるのは難しい状況となり、コンビニなどのお店にも人が殺到し、商品がすぐなくなる可能性があります。また、電話・水道・ガスといったライフラインは、災害発生直後は停止し、利用できなくなることを覚悟しておきましょう。

非常備蓄品チェックリスト(例)

- ☐ 水（飲料用1日分は3L×家族の人数×7日分）
- ☐ 食料（インスタント・レトルト・缶詰など）
- ☐ 食器（スプーン・フォーク・箸・ばし・トレイ・皿・箸・コップ）
- ☐ ラップ・アルミホイル
- ☐ カセットコンロ・カセットボンベ
- ☐ トイレレットペーパー・簡易トイレセット（1日分は5～7回×家族の人数×7日分）

必要数量 備考欄

書いてある場所や賞状期限などを記入

わが家の避難メモ

災害種類 ※対象に○	避難の タイミング	避難する ところ
洪水		
土砂災害		
高潮		
津波	すぐに	
地震	すぐに	揺れが収まったら、 一旦、建物の外へ

メモ：



本人・家族の状況把握（体調面等）、ハザードマップ、避難先・避難経路、非常持出品、家財の転倒防止策、備蓄状況等の確認を行い、対象者に 合わせて必要な情報提供を実施。

最低3日分の飲料水と生活用水、食料を備蓄するよう伝えています。

自助力・共助力向上のための取組（難病）

【事例】

- ・60代男性 神経疾患 人工呼吸器装着 要介護5
 - ・保健所の災害時個別支援計画策定済 発電機準備あり
 - ・発災当時、水位が急に上がり、近隣住民がボートで様子を見に来てくれ、本人を2階へ避難させ、タンスをベッド代わりにして救助を待った。
- 災害拠点病院へ到着したときにはバッテリーが残り2時間

- ・自宅の災害の危険性の見通しが甘かった。
- ・普段からよく外出し、近隣住民にも状況をよく知ってもらっていた。



●申請時面接

- ・R元年度とR4年度に、特定医療費受給者証更新者全員に避難行動や災害の備えに関するアンケートを行い、リスクに応じた情報提供を実施。
- ・R2年度以降、電源を必要とする医療機器使用患者には、停電対策を助言。

●療養支援

- ・自力での避難が困難な患者には、レスパイト入院等、外出機会や自宅以外で過ごす機会を持つよう助言。

●保健所の災害時個別支援計画 防災の個別避難計画の作成

- ・常時人工呼吸器使用患者を最優先とし、計画作成を支援。
- ・関係機関との共有や避難訓練の実施などにより、患者が抱える課題の洗い出しを行っている。

●関係機関連携

訪問看護ステーションとの連携会議を拡大し、平時からの備えや安否確認等の連携のあり方について検討を重ねた。

防災の視点を取り入れたウォーキングマップ

市内56か所作成

(※すべてのマップに防災
情報は記載されていません)



ウォーキングマップの活用について

表面のマップには3kmコースと5kmコースを紹介していますが、その日の体調や気分によって、いろいろなコースを変えて歩いてみるのもいいですね。大切なことは毎日ウォーキングを続けることです。年齢を重ねると骨や筋肉の量が低下するため、転んだ時に骨折などを起こしやすくなります。「転倒・骨折」は高齢者が要介護になる原因の一つです。日頃から、良い姿勢・足腰の筋力アップ・バランス能力の改善のため運動を心がけましょう。毎日続けることで足腰が鍛えられ、転倒を防止できます。また糖尿病や高血圧などの生活習慣病の予防改善にもつながります。

がんばろう 1日1回ウォーキング！

ウォーキングのマナー5ヶ条

- ① やあ、おはよう！ 明るくあいさつ さわやかに
- ② 信号で あわてずあせらず 待つ余裕
- ③ 広がるな 参加者だけの 道じゃない
- ④ 自分ごみ 自分責任 持ち帰り
- ⑤ 歩かせて いただく土地に 感謝して

良い姿勢でさっさと歩く



防災

目指そう！

逃げ遅れゼロの川辺地区

川辺地区 洪水被害 5m

ハザードマップでは川辺地区のほとんどのエリアが5m以上の浸水予想です。洪水時において、安心・安全のためには、より安全な場所へ避難しましょう。

前もって 家族で決める マイ避難先

いざという時に迷わずに避難できるように、避難するための避難先を決めましょう。指定避難所・指定緊急避難場所以外にも地元や自宅、ホテル等3か所程度を覚えておくことが大切です。

災害の 種類で違う 避難先

川辺小学校、川辺分館は、地震・土砂災害の場合の避難場所です。洪水の場合は、浸水エリア内にあるため、川辺小学校のみ、逃げ遅れた場合の緊急時に限り利用できます。川辺地区周辺の代表的な避難先はハザードマップや倉敷市のホームページで確認してください。

情報は 正しく理解 即行動

【警戒レベル3】の高齢者等避難で、高齢者・障がい者・乳幼児・妊産婦など避難に時間がかかる人は避難開始です。その他の人も、すぐに避難ができるように準備しておきましょう。

「避難しよう」 みんなで押しあう 避難スイッチ

避難のタイミングは迷います。でも、若い人や近所からの呼び掛けがあれば、早めの避難につながります。日頃のつながりを大切にして、いざという時に助け合うことができる温かい地域を目指しましょう。

「無事です！？」 黄色いタスキで 安全確認

川辺地区は「黄色いタスキ」運動の取り組みをしています。「無事です！」を知らせるために、玄関先に黄色いタスキを飾りましょう。

日頃から 備えて安心 持ち出し品

非常時持ち出しリュックには、自分や家族に合わせて必要なものを自分で準備しましょう。水・食料・防寒対策は3日分を準備。入浴・排泄器・寝具・薬などを忘れないように持ち出しましょう。

「黄色いタスキ」運動は川辺地区独自の取り組みです

災害への備えに関する啓発用リーフレット作成

「リーフレット」

災害が起きる前にできる「備え」の大切さ

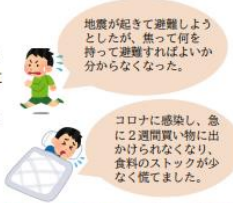
市民の皆さんにお伝えしたい「備え」をまとめました。

備え① 《物の備え》 備蓄・非常持ち出し品を準備しておくこと

Q.何を準備すればいいの？

A.倉敷市のホームページ「日ごろの備えについて」の『非常持ち出し品』『非常備蓄品』を参考に準備しましょう。

コロナの時のように、感染し外出できない時にも助かります。



加えて

病気を悪化させないために

- ・治療中や経過観察中の病気の名前
- ・飲んでいる薬の名前やお薬手帳（説明書の写し）
- ・数日分のお薬
- ・かかりつけの病院名や医師の名前
- ・家族と共有しておけるとより安心ですね。

乳幼児や高齢者など、それぞれにあった準備を

- ・乳幼児や高齢者、持病、アレルギーのある方は、それぞれに合った食品（非常食・食料など）を準備しましょう。備蓄の消費期限の確認も忘れずに。
- ・家族構成によって必要なもの（ミルクやおむつ、介護用品など）は異なります。使い慣れたものを準備しましょう。

備え② 《体の備え》自身の身体を把握し、改善しておくこと

日ごろからの健康管理が重要です。
災害にまけない身体づくりを目指しましょう。

- 自分の身体の状態を把握する
災害時等、いつもと違う状況（環境変化）や過度のストレス等によって、体調不良になる恐れがあります。
「健康診断」を受けて、ご自身の身体の状態を把握しておきましょう。



- 病気を悪化させないために
持病がある方は普段から治療や管理を行い、できるだけ状態を安定させておきましょう。
災害時は薬が手に入りにくくなる恐れがあるため、お薬手帳と一緒にもちだせるようにしておきましょう。



- 体力づくり
日常的に体を動かし、体力をつけておきましょう。



備え③ 《自助・共助の備え》自助力・共助力を高めていくこと

自助＝自分の身は自分で守る！
共助＝近隣で助け合う！

- 自助＝自分の身は自分で守る！【自分自身と身近な家族の安全を守る】

- ・本リーフレットの備え①②の実行
- ・家具、テレビ、蛍光灯等の転倒、落下、移動防止
- ・家族同士で災害時の安否確認の伝達手段の確保
- ・ハザードマップの確認
（自分の住む地域のどこにどのような被害が起こるのかを知る）
- ・避難経路の確認 など
- ・妊産婦の方や乳幼児のいる家庭の方 内閣府が紹介している「あかちゃんとママを守る防災ノート」も参考になります。



- 共助＝近隣で助け合う！【地域やコミュニティで協力して助け合う事】

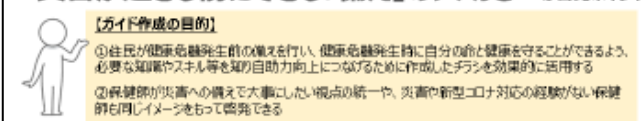
- ・日頃から顔の見える関係づくり（顔見知り関係になっておく）
- ・近所の助け合い
- ・地域の防災訓練の企画や参加 など



倉敷市保健所 R7.1作成

「リーフレット使用ガイド（例）」

「災害が起きる前にできる「備え」の大切さ」の啓発ポイント



【ガイド作成の目的】

- ①住民が健康な暮らしを営むための、健康な暮らしに自分の命と健康を守ることができるよう、必要な知識やスキル等を自助力向上につなげるために作成したチラシを効果的に活用する
- ②保健師が災害への備えで大事にしたい視点の統一や、災害や新型コロナ対応の経験がない保健師にイメージをもって啓発できる



【使い方】

- ①集団への健康啓発だけでなく、個別支援（訪問や面談）でも活用できます。
- ②基本的な情報に加え、対象者に合わせて追加情報を伝えます。
- ③防災への取り組みについて話し合う話題提供の一つとしても活用できます。

もう少し詳しく

【ポイント】

- ・まずは自分事として考えてもらえることが大切です。
- ・たとえば以下のようなことを働きかけます。
- ・住んでいる地域の災害のリスクを具体的に伝える
→過去の災害やハザードマップを見ながらリスクを説明する
- ・災害等による、生活の影響を具体的に想像してもらう
→今災害が起きたら、何曜になったら、断水したら？
→新たな感染症の流行で、急に14日間外出禁止されたら生活はどんな？



非常持ち出し品や備蓄が必要？

- 倉敷市の食料備蓄の目標は3万3千人分、市民全員分を確保されています。
- （倉敷市人口：約47万人）
- 災害の規模にもよりますが、国や自治体による支援が期待し、始めるのは、発災から概ね4日以降といわれています。
- つまり、それまで自分自身（自力）で過ごすことができるような準備が必要となります。

【添付】

- ・特に配慮が必要の方（妊産婦・乳幼児・高齢者・持病がある方等）が、安心・安全に避難所での時間を過ごすために、それぞれに合った備蓄品を準備しておくことが重要であることを伝えます。

- 非常持ち出し品とは：避難場所まで2～3日過ごすために必要なもの
- 備蓄品とは：救援物資が届くまで自給できるように準備（3日～1週間分）

- 例）妊産婦：親子健康手帳、生理用品・清浄綿、分娩準備品、新生児用品、等
- 乳幼児：ミルク（ミルク用飲料水、哺乳瓶）、離乳食、抱っこ紐、おむつ、お風呂、おもちゃ、おやつ、等
- 高齢者：杖、入れ歯・洗浄剤、老眼薬、補聴器、大人用紙・ウタ、介護食等
- 女性：生理用品、おむつのシート、防犯グッズ、化粧品・洗剤シート、等

署名

被災・コロナ経験のない若い保健師でも、効果的な啓発となるよう、使用ガイドを検討中。

保健師現任教育としての災害伝承（具体的な取組）

被災を経験した自治体として、
現任教育に「災害伝承」を盛り込んでいます

R3

- ・災害対応の振り返りができていない
- ・コロナ対応も経験
- ・被災・コロナ経験を人材育成に活かしたい



災害ワーキング
会議立ち上げ

R4

災害ワーキング
会議で、現任教
育としてどう体系
づけるかを検討

⇒全期で『災害
伝承』テーマに
研修実施

R5

現任教育として
中長期計画及
び、災害伝承の
研修の実施内
容を検討

⇒①新採用保健
師は毎年実施
②年代別（中堅
期以降）3年に1
回実施

R6

- ・新採用保健師
研修
- ・能登派遣の経
験共有及び
健康危機対応
とも連動しな
がら実施

R7

- ・新採用保健師
研修
- ・管理期保健師
研修

※R8年度以降も
『災害伝承』を
継続する予定

課題

- 災害対応経験のない保健師が、災害対応を自分事として考えられるような取組（災害伝承や訓練内容の工夫）
- 避難所等での具体的な実践活動（保健指導や健康相談）につなげられるような研修
- 受援対応に関する訓練
- 啓発活動の評価

ご清聴
ありがとうございました

